# 令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

# 北九州市立　　白銀　　中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和5年6～7月に、2年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。（熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。）

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部分です。

## 1. 調査の目的

(1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

(2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

## 2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

［8種目］ 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走・20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択するため8種目となる

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

※ 本校の2年生は単学級ですので、個人が特定されることがないよう、公表の方法について配慮しています。

## 3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市の実技調査の結果

＜男子＞

| 本年度の結果 | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 持久走 | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび | ソフトボール投げ | 体力合計点 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全国 | 28.98 | 25.71 | 44.04 | 51.19 | 409.92 | 77.76 | 8.01 | 196.97 | 20.32 | 41.18 |
| 本市 | 29.72 | 26.24 | 46.29 | 51.95 | 413.28 | 80.12 | 7.86 | 201.52 | 20.51 | 43.46 |

＜女子＞

| 本年度の結果 | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横とび | 持久走 | 20mシャトルラン | 50m走 | 立ち幅とび | ソフトボール投げ | 体力合計点 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全国 | 23.12 | 21.53 | 46.26 | 45.65 | 307.02 | 50.46 | 8.95 | 166.21 | 12.36 | 47.08 |
| 本市 | 23.64 | 22.08 | 47.52 | 46.35 | 320.97 | 51.41 | 8.86 | 170.70 | 12.13 | 48.65 |

## 4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

| 質問紙調査の結果分析 |
|---|
| 運動やスポーツに関する意識について、「することが好きですか」「大切なものですか」「する時間を持ちたいと思いますか」という質問に対して、女子については、肯定的な回答をした割合がいずれも全国・北九州市のポイントを上回っていた。<br>生活習慣については、「朝食は毎日食べますか」の質問に対して、「毎日食べる」と回答した生徒が男女とも全国・北九州市のポイントを下回り、「食べない日が多い」「食べない日もある」と回答した生徒が男女とも30%を超え、全国・北九州市を上回っている。<br>保健体育の授業については、「保健体育の授業は楽しいですか」の質問に対して、「保健体育の授業は楽しい」と回答した生徒が男子については、全国・北九州市のポイントを上回っている。 |

## 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科（授業）に関する取組（全校で・学年で・学級で）

保健体育においては、ティームティーチングでの授業を行い、発達段階及びそれぞれのステップに応じた課題を提示し、「運動が嫌い・運動が苦手」な生徒への支援を継続して行う。また、学び合い形式で活動するため、生徒主体での活動をメインとしている。生徒同士で教え合い、仲間と触れ合う楽しさを感じられるように取り組む。また、ICT機器を活用し、正しい動作・行い方を視覚的に理解できるように工夫している。

② 運動習慣等に関する取組（1校1取組）

保健体育の授業の中で「運動することが楽しい」と感じることができるように、学び合いを行い、他者に伝えることで学習内容の理解を深めている。教師がポイントを伝えるばかりではなく、子ども同士で話し合い、ポイントを見つけ、教え合い、主体的に活動している。